SHALOM-NETWORK

発行：NPO 法人シャローム事務局

〒960-1241 福島県福島市松川町字東原 17-3
TEL ／ FAX　024-567-5322
Web　http://www.nposhalom.net
Email　info@nposhalom.net
発行責任者：大竹静子

ひまわり感謝祭 2017　開催報告

十二月二日ひまわり感謝祭＆共に生きる仲間たちのコンサート 盛会のうちに終了！

今年のシャロームの活動を総括する「第七回ひまわり感謝祭」と「第二十一回共に生きる仲間たちのコンサート」が、福島市のＡＯＺ（アオウゼ）で開催されました。震災から七年を迎えようとしている今、福島の現状も大きく変化しつつあります。その中で、イベントの内容も活動の広がりを反映するものとなりました。

●「たんぽぽの家」の全面協力

今年の特徴の一つは、奈良県にある「たんぽぽの家」の全面的な協力を得て開催した「エイブル・アート展」とシンポジウムでした。シンポジウムではたんぽぽの家理事長・播磨靖夫氏に「生きる力・文化の力」と題して基調講演をいただきました。さらに、シャロームの障がい者支援に賛同した播磨氏の尽力により、福島での「エイブル・アート展」が実現しました。

障がいのある人たちの生活の場をつくる市民活動を展開してきたたんぽぽの家の活動は、シャロームの目指してきた活動に重なり、そこから多くのものを学ぶことができました。震災と原発事故後、私たちは、すべての「命」を守り育てていく社会を目指した「ふくしま」からの提案として「人権」を取り上げてきました。

それは、播磨氏の基調講演のテーマに重なり、すでに実践されてきたものであることを教えられます。すべての人が自分らしく生きる権利があることを具体化する活動として展開されてきたのが「可能性の芸術運動＝エイブル・アート」です。すべての人の生き方はアートであるという視点から人の生きざまを捉えると、そこから生まれる表現を芸術と見ることができ、一人一人の存在を認め合える関係が出来上がると言います。そこには、失われた人間関係を修復していくための大切な視点があることを感じます。

震災から七年目の福島で進行している人間関係の分断、コミュニティの崩壊、風評と風化、内部の課題と外部の状況が複雑に絡み合い問題を複雑化させている現実は、障がい当事者と健常者の関係によく似ています。相手を障がい者として自分と区別し無関心でいることで、無意識のうちに差別を生んでいきます。ふくしまと日本、原発事故の風化と風評被害に重なります。

●ひまわりが全国とふくしまをつないだ一日

原発事故を契機に始まったひまわりプロジェクトは確実に全国に広がり、仲間たちのコンサートでは、ボーカルユニット「シルバートーン」がオリジナル曲「ひまわりの花束」を携えて岡山から参加してくださいました。

ひまわりの栽培地も北海道から九州まで広がり、団体での栽培協力が増えています。今年は福島を訪れた栽培協力者の皆さんと現場での悩みを話し合える「ひまわり栽培相談会」を初開催しました。農業試験場の主任研究員を務める平山孝氏を講師に招き、ひまわりに関わる具体的な話題に活発な意見交換が行われ、多くの仲間が全国で活動している様子を知り、来年への意欲を強くしていました。

今年一年間、シャロームの活動に参加していただきありがとうございました。今年の成果を糧に来年に向けて一歩ずつ歩みを前に進めていきたいと思います。来年もシャロームに参加する皆さんにとって良い年になりますように願っています。

良い年をお迎えください。

（シャローム代表　大竹静子）

愛のメモ帳

師走、今年も残すところわずかとなってきた。今年一年を振り返る。今年の「ひまわりプロジェクト」も、一年間の締めくくりとなる「ひまわり感謝祭」をもって終了した。回を重ねるごとにその内容は進化し、その重みを増していく。

一粒の種が、芽を出し、花を咲かせ、花を散らせながら実を結ぶ。一粒の種の一生は、次の世代を準備してその一生を終える。その何気ない一生は、多くの人々を巻き込んでいく。ひまわりの命を守ろうとする人々の思いを集め、その思いが人々の心を繋いでいく。命を守る命のリレーは全国に広がり、地域を超えてひまわりを思う人々に共感関係を創り出す。

人間は、自然界の中で弱い存在であったからこそ集団化して社会を創った。弱い命を守るために人々は寄り添い助け合って生きてきた。人類は、助け合うことで生き抜き歴史を刻む。

新たな年に向けて「ひまわりプロジェクト」は、共に活動し感動を憶えた仲間を得ながら新たな一頁を準備していく。今年の成果を活かせる年になることを願う。

（T・O）